

子宮頸がん予防ワクチン(HPV)接種

2023年4月1日より9価HPVワクチンをはじめます

「子宮頸がん」って、どんな病気？

子宮のがんは、子宮の入口の頸部にできる「子宮頸がん」と、子宮奥の子宮体部にできる「子宮体がん」の2つに分けられます。

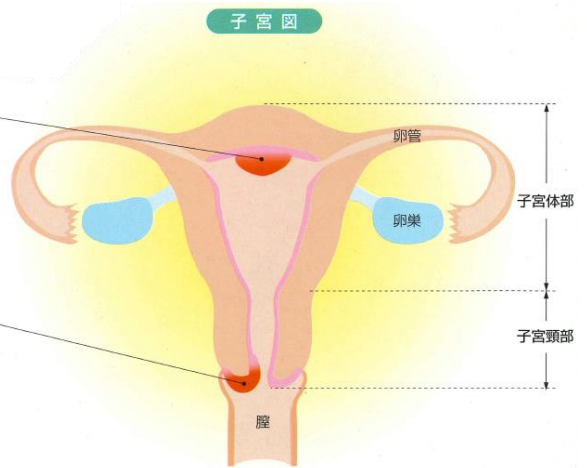
子宮頸がんは、子宮がん全体の約70%を占めています。

子宮体部がん

子宮の奥の部分「子宮体部」に発生するがん。
閉経後に発症することが多く、50歳代がピークとなっています。

子宮頸部がん

子宮の入口部分「子宮頸部」に発生するがん。
発症のピークは40歳代であるが最近、若年者の発生率に増加傾向が見られます。



子宮頸がんの原因

子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染が原因です。HPVは男性にも女性にも感染するありふれたウイルスであり、性交経験のある女性の70～80%は、一生に一度は感染の機会があるといわれています。感染してもほとんどの人はウイルスが自然に消えますが、一部の人は消えずに長期感染し、その一部の人ががんになってしまうことがあります。

若い女性もかかりやすいがん！

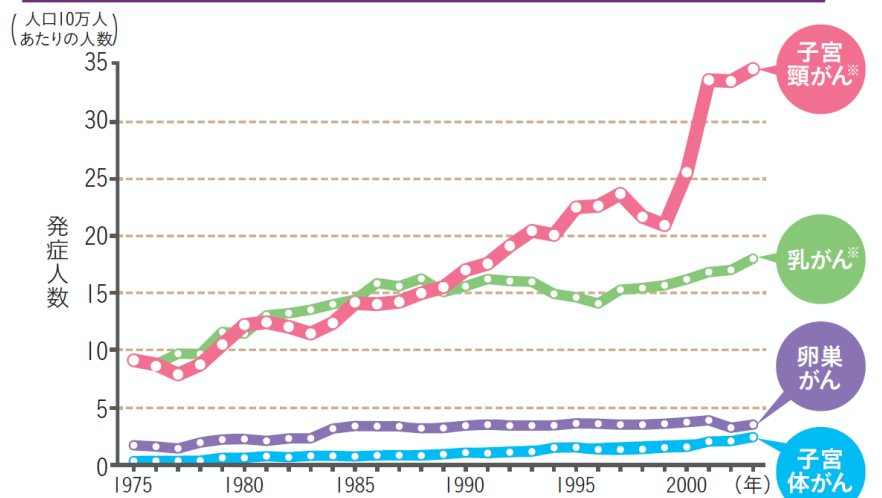
20～30代では子宮頸がんが急増しています。

背景には、性経験の低年齢化と、この年代層の受診率が低いことにあると考えられています。

がんになる過程の異常（異形成）や、ごく初期の頸がんを発見することができれば、子宮を残す治療が可能で、妊娠出産も望めます。

若いから大丈夫と安心せずに、20代から2年間に1回は検診を受けるようにしましょう。

20～39歳の日本人女性における女性特有のがん発症率の推移



※上皮内がんを含む

国立がんセンターがん対策情報センター、人口動態統計(厚生労働大臣官房統計情報部)

子宮頸がんはゆっくり進行する・・・

HPVに感染しても、約90%の人においては免疫の力でウイルスが自然に排除されますが、10%位の人ではHPV感染が長期間持続します。

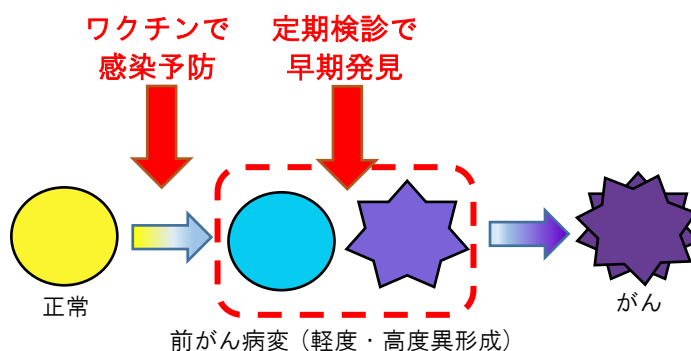
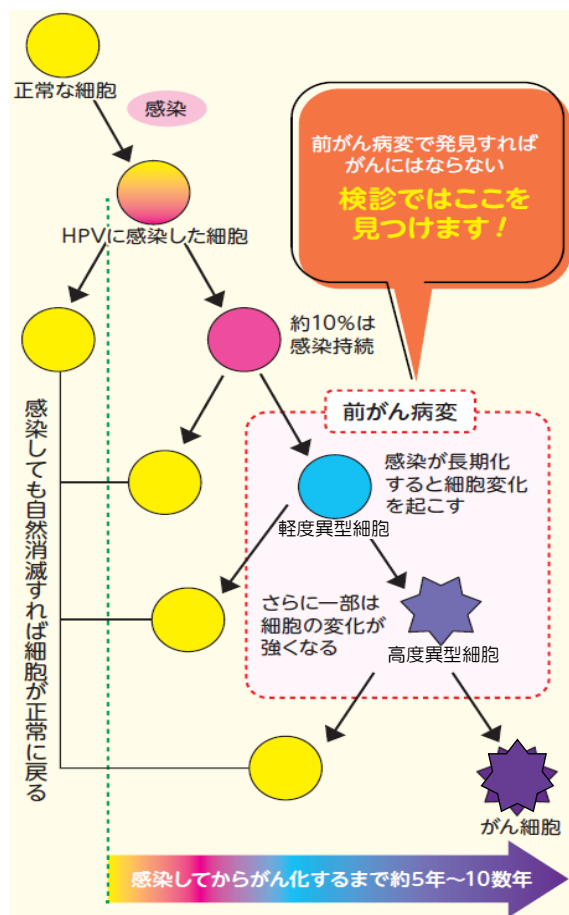
この長期持続感染者の一部の人は、約5年から10数年をかけて子宮頸がんに行進します。

ワクチン接種+2年に1回のがん検診

子宮頸がん予防ワクチンを接種することで、HPVの感染を低減させることができます。

HPVワクチンの定期接種の対象者は、小学校6年～高校1年相当の女の子です。これらの対象者は、公費により接種を受けることができます。

また、子宮頸がん検診を定期的に行うことで、がんになる前の病変（異形成）や、ごく初期のがんを発見し、経過観察や負担の少ない治療につなげることができます。予防ワクチンを接種しても、発がん性HPVの感染を100%予防することはできませんので、ワクチンを接種した後も20歳を過ぎたら2年に1回、子宮がん検診を受けましょう。



ご予約・お問い合わせ

【電話】043-246-8664

【時間】初回予約・問い合わせ……平日16:00～17:00（看護師対応）
2回目・3回目予約……平日 9:00～16:00

【接種日】毎月第3金曜日

【受付時間】13:00～13:30 診察開始 13:30～

【対象】①定期接種対象者：高校1年生（年齢16歳）※小学6年～中学3年は実施していません
②キャッチアップ対象者：（年齢17歳～26歳）
③27～35歳くらいまで

【ワクチン】シルガード9 3回接種 《初回接種→初回接種2か月後→初回接種6か月後》

【費用】①②千葉県内在住の方：無料 ③及び県外の方：1回26,000円（税込）

【持ち物】母子手帳、保険証、予防接種番号シール（お持ちの方）、
県内千葉市以外の方：予診票（③及び県外の方は無し）

※18歳未満で保護者（父母）が来れない場合、委任状が必要（千葉市HP（予防接種委任状）から出力）